

式 辞

ようこそ、ここ鬼無の地、希望の丘にそびえ立つ我らが西高へ。そして、よくぞ西高を第一の志望校にしてくれてありがとう。我々はみなさんの入学を、今か今かと、この日を待ち望んでいました。新入生の皆さん、入学おめでとう。あわせて、これまでお子様を深い愛情を持って育ててこられた保護者の皆様に心からお慶びを申し上げます。

さて、現代は社会におけるグローバル化や情報化が進む中、少子高齢化、エネルギー問題、不安定な国際情勢やいつ起こるかも知れない大規模な自然災害など、たくさんの不安要素が存在しています。また、十年後、二十年後の社会を考えると人工知能が進化し我々から仕事を奪ってしまうのではないかなどと、現代を含めこれからの時代は、ある意味、生きにくい時代と言えます。この生きにくい時代をしっかりと生きていくためには、自分が世の中の役に立つためにはどうすべきか真剣に考え、そのために生涯にわたって学び続ける覚悟を持たねばなりません。そして、そのような生き方を支える健全な精神を持ち続けることが要求されます。

そこで、みなさんには入学に当たって西高生としての覚悟を決めていただきたいのです。また、それを支援するのが西高の使命なのです。それは具体的に次の三つになります。

一つ目は、自ら学ぶ姿勢を身につけること。これまでのやらされる学習から、自ら目標を持ち計画的に学習すること。そして、自分の学力はどの程度なのかが自分でわかり、次へのステップを踏めるようになることです。勉強は本来楽しいもの、分からないことが分かるようになること、できないことができるようになることは嬉しいはずです。授業をきちんと受けて、西高の名物である課題にどう取り組むかで自ら学ぶ姿勢を獲得できるのです。一年次に授業の受け方と課題の取組方についてしっかりサポートします。来年の今頃には先生からではなく、自ら教材を活用して学習を進められるようになってもらいたいのです。そうなってくると、勉強本来の楽しさが分かってきて、実力を伸ばし、自らの個性に気づくことになるでしょう。行きたい大学がはっきりしてきて、将来への展望が開けるのです。

二つ目は、思いやりを中心とした人間力を身につけること。勉強ができればいい、良い大学に合格さえすればいいというものではありません。人間性の伴わない学問の探究は不安要素を抱えています。例えば、原子力の利用を考えるとよく分かるのですが、人類の利便性だけを考えて行動していくと人類にとっては確かに便利になるでしょう。しかし、先の戦争や震災が教えてくれたように、使い方を誤ったり想定外の事故がおこったりすると、我々人類を含めた自然に大打撃を与えてしまいます。大切なのは科学技術と自然との共存でそれを目指すべきです。そのために、決して自己中心的にならず、他社を思いやる心や自然に対する畏敬の念を忘れないなどの人間力を兼ね備えておくことが大切になってきます。

三つ目は、青春の全てをかけて何かに取り組むということ。西高が創設以来、文武両道の精神を貫いてきたのには意味があるということです。好きなこと、やりたいことでいいので必ず部活動に入ること。そして、技術を向上させるために、勝つために、作品を作り上げるために、持てるエネルギーの全てを統合し、いくつもの試練を乗り越えることです。年齢も違う、育った環境も異なる、気が合う、合わないこともあるかもしれない者同士が同じ目標を目指す体験は貴重です。さらに、西高では短時間での練習となりますが、それでいて県下の強豪校に挑み、勝つことに意義があります。そこに思いやり、友情、努力、協力、忍耐、創造、感謝など学問から学ぶことのできない人としての大切な部分、これこそ人間力ですが、それを生身の心と体を通して獲得していきます。そうして、この体験を生かすことで、人生において出くわすであろう大きな試練に対して逃げることなく立ち向かい、乗り越えて行くことができるのです。

これからの三年間、美しい四季の移り変わりを体感できる静かな環境の中に身を寄せて学ぶこと。そして、いつか説明する 때가来ますが、この校舎は有名な建築家が自然と建築の共存を目指し、

そこに学ぶものたちに「学問の探究と人間性の共存を意識せよ」との思いで設計されました。先人の君たちに対する思いのこもった校舎に身を寄せ、学ぶことは世界中のいかなる高校生よりも良い環境で学べることになります。さあ、いよいよ西高での新しい生活が始まります。西高生としての覚悟を持って、ここに集った仲間と切磋琢磨し、より専門性の高い学びの場である大学へと繋ぐ準備をしてください。その先には自分ならではの個性を見いだし、やがては地域の、そして国家や世界のリーダーとなって活躍するという気概を持った未来の自分を胸に描きながら。すべては世のため人のために。

最後になりましたが、私ども教職員一同は、本日より皆様の大切なお子様をお預かりいたします。我々も新入生全員の成長を支援するために最善を尽くす覚悟を決めているところです。どうか、ご家庭におかれましても、学校との連携を密にいただきまして、これからはじまる新入生の高校生活が実り多いものになりますよう、ご支援、ご協力をお願い申しあげまして、式辞といたします。

平成三十一年四月九日

香川県立高松西高等学校
校 長 佐 藤 良 二